

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	後療法実技1	
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実技		
教科書/教材	教科書（柔道整復理論 -社団法人 全国柔道整復学校協会 監修-）に準拠する。				
<b>担当教員情報</b>					
担当教員	星野 虎之助	実務経験の有無・職種	有・柔道整復師		
<b>学習目的</b>					
<p>後療法は、損傷組織を回復させる目的で、包帯などによる固定を継続するとともに、手技療法、運動療法、物理療法の三者の生体反応を相乗的に作用させて、早期に社会復帰させる手法をいう。また医療機関から後療法の依頼を受けた場合は、医療機関と密接に連絡をとり、受傷機序、手術方法や経過など正確に把握した上で進めなければならない。この授業ではそれぞれの療法についての実技を習得すると同時に、病院・診療所との連携を可能とすることで国民の健康向上に寄与する医療人を育成することを目的とする。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>後療法の対象として大きな部分を占める拘縮や筋萎縮は、損傷そのもので起こるよりは、むしろ固定に伴って発生する。この点を十分認識し、出来るだけ拘縮や筋萎縮などが発生しないような治療法をとるべきである。したがって後療法とは、固定を除去した日から始まるものではなく、患部外への手技療法や運動療法など固定を施した直後から開始されるものである。各療法ともその意義を十分に理解して、注意すべき禁忌事項を把握した上で、必要な技術を体得するための授業を進めていく。</p>					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	教科書を参考に実技・実習を進める。実技授業中の手技療法・運動療法・物理療法の習得に関してはクラス内の学生をグループ分けにより班編成をして、患者役や施術者・助手役に分かれ、指導担当者からの指導により実際の対応に近い形で進めていく。将来必要とされる患者への説明技術を向上させることでinformed consentの能力も育成する。				
注意点	国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。実技であるため白衣未着用であったり、爪の手入れ不足などの不衛生な状態での授業参加も認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な対応ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の1以上欠席した者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	<b>種別</b>	<b>割合</b>	<b>備 考</b>		
	試験・課題	70%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	0%			
<b>授業計画（1回～15回）</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	ガイダンス	後療法を学ぶことで留意すべきことについて理解する			
2回	背部、下肢の筋の特徴	各筋の分類・起始・停止・作用・支配神経の理解を確認する			
3回	背部の触診	体形・姿勢・腫脹・変形などに留意して技術を習得する			
4回	脊柱起立筋のマッサージ	皮膚・筋・骨・関節性状・腫瘍・圧痛などに留意して習得する			
5回	腰部と臀部の触診	体形・姿勢・腫脹・変形などに留意して技術を習得する			
6回	腰部と臀部のマッサージ	皮膚・筋・骨・関節性状・腫瘍・圧痛などに留意して習得する			
7回	大腿後面の触診	体形・姿勢・腫脹・変形などに留意して技術を習得する			
8回	前期7週までの振り返りと確認演習	1回～7回までの知識・技術が蓄積されているか確認する			
9回	大腿後面のマッサージ	皮膚・筋・骨・関節性状・腫瘍・圧痛などに留意して習得する			
10回	下腿の触診	体形・姿勢・腫脹・変形などに留意して技術を習得する			
11回	下腿後面のマッサージ	皮膚・筋・骨・関節性状・腫瘍・圧痛などに留意して習得する			
12回	下腿後面のマッサージ	皮膚・筋・骨・関節性状・腫瘍・圧痛などに留意して習得する			
13回	徒手筋力テスト法	身体諸筋の筋力評価を習得する			
14回	前期13週までの振り返りと確認演習	9回～13回までの知識・技術が蓄積されているか確認する			
15回	まとめ	半期で取得した知識の確認			